

マンネンタケ（霊芝）菌糸体培養抽出物 MAKのC型肝炎に対する治療効果

Treatment effect of MAK for C-type hepatitis

高島 澄夫¹⁾²⁾，佐々木 浩一²⁾，湯川 紘未³⁾，湯川 永洋¹⁾，大橋 康宏⁴⁾

1) 湯川胃腸病院消化器科，2) 同 画像診断科，3) 同 薬剤科，4) 野田食菌工業

We studied the effect of MAK about 6 patients of C-type hepatitis for one year. The value of AST and ALT were decreased in 50% of patients. The volume of HCV-RNA was reduced markedly in 17% of patients. This report suggests that MAK is able to reduce the hepatic injury induced by C-type hepatitis. Therefore MAK may be an effective nutritional food for C-type hepatitis.

【目 的】

マンネン茸菌糸体培養抽出物「MAK」はその免疫調節作用，抗ウイルス作用によりC型肝炎に対する治療効果が期待できる。今回，C型肝炎に対するその有用性について臨床効果を検討する。

【対象・方法】

対象はMAKを1年間投与したC型慢性肝炎・肝硬変6例である。年齢は57歳～77歳(平均67歳)，男性2例，女性4例である。投与期間は12ヵ月である。

MAKの投与は1日6gとした。MAK投与後毎月肝機能検査，core抗体価，HCV-RNA定量を測定した。

【成 績】

AST，ALT，ALB，CHEのMAK投与前後の値からみた改善例，不変例，悪化例の割合を検討した。前値の±10%を不変とし，改善，悪化の3段階で評価した。ASTは改善例50%，不変例33%，悪化例17%，ALT：50%，34%，17%，ALB：0%，100%，0%，CHE：0%，83%，17%であった。core抗体価は低下0%，不変0%，増加100%，HCV-RNAは低下17%，不変50%，増加33%であった。投与中の副作用，症状悪化等は見られなかった。

【結 論】

C型慢性肝炎・肝硬変例に対してMAKを投与することによりAST，ALT値の低下を半数の症例で認めMAKは肝細胞障害の程度を改善できると考えられた。ALB，CHEはほとんど変動が見られず，肝機能への影響は見られなかった。ウイルス量の低下は1例17%に顕著にみられMAKによるウイルス抑制の可能性も示唆された。MAKのC型肝炎に対する治療効果は以前当学会で報告したLEMの効果と類似しており，緩徐ではあるが有用性が高いものと考えられた。